海事振興部

貨物・港運課

**１　内航海運の現況**

**（1）内航海運登録事業者数等**

　　　　管内の内航海運事業者数は、第１図のとおりである。

第１図　管内の内航海運事業者数の推移（各年度末現在）

**（2）法人・個人別事業者数**

　 　 管内の法人・個人別の登録事業者数は、第１表のとおりである。

第１表　法人・個人別登録事業者数（各年度末現在）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 　 | 平成３０年度 | 令和元年度 | 令和２年度 | 令和３年度 | 令和４年度 |
| 内航海運業登録事業者数 | １７９（９） | １７０（８） | １６７（８） | １６7（８） | １70（7） |

 　（　　）は個人事業者数で内数

**（3）船種・船型別船腹量及び隻数**

　 令和４年度末の管内の所有船舶の船種・船型別船腹量及び隻数は第２表のとおりである。

第２表　船種・船型別船腹量及び隻数　（令和５年３月末現在）

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 船腹量区分及び隻数 | 貨物船 | 土・砂利・石材　　　専用船 | セメント専用船 | 自動車専用船 | 油送船 | 特殊タンク船 | 合　計 |
|  |
| 100G/T未満 | 船腹量（G/T） | 1,463 | 150 | 0 | 0 | 375 | 0 | 1,988 |  |
| 隻数(隻) | 57 | 2 | 0 | 0 | 7 | 0 | 66 |  |
| 100～499G/T | 船腹量（G/T） | 60,977 | 15,557 | 0 | 0 | 10,109 | 864 | 87,507 |  |
| 隻数(隻) | 170 | 34 | 0 | 0 | 27 | 2 | 233 |  |
| 500～699G/T | 船腹量（G/T） | 7,601 | 0 | 0 | 0 | 1,100 | 1,226 | 9,927 |  |
| 隻数(隻) | 13 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 17 |  |
| 700G/T～ | 船腹量（G/T） | 106,505 | 8,218 | 9,957 | 0 | 25,393 | 6,949 | 157,022 |  |
| 隻数(隻) | 42 | 5 | 1 | 0 | 7 | 3 | 58 |  |
| 合　計 | 船腹量（G/T） | 176,546 | 23,925 | 9,957 | 0 | 36,977 | 9,039 | 256,444 |  |
| 隻数(隻) | 282 | 41 | 1 | 0 | 43 | 7 | 374 |  |

**（4）自家用船舶使用届出状況（100総トン以上）**

管内の自家用船舶の使用届出状況は、第２図のとおりである。

第２図　管内の自家用船舶使用届出状況 （各年度末現在）

**（5) 内航海運業地区別登録事業者分布状況**

管内の内航海運業地区別登録事業者分布状況は、第３図のとおりである。

第３図　管内の内航海運業地区別登録事業者分布状況（令和５年３月末現在）

**２　貨物利用運送事業の現況**

 管内の貨物利用運送事業者数は、第４図のとおりである。

（ただし、内航運送及び外航運送に係る第一種貨物利用運送事業者に限る。）

第４図　管内の貨物利用運送事業者数の推移（各年度末現在）

**３　港湾運送事業の現況**

1. **港湾運送事業者数・許可数**

管内の指定港湾各地における許可数及び店社数（事業者数）等の推移は第５図から第７図のとおりである。

第５図　管内の港湾運送事業者の許可数及び店社数の推移　　（各年６月１日現在）



第６図　管内の検数・鑑定・検量事業者の店社数と許可数の推移　　（各年６月１日現在）

 注．検数・鑑定・検量事業については全国一律許可



第７図　管内の港湾運送関連事業者の店社数と届出数の推移　　（各年６月１日現在）



 **(2) 港湾運送実績**

 　※（　）内％は対前年度比を示す

管内の港湾運送事業法の指定港である神戸港、尼崎西宮芦屋港、姫路港及び東播磨港の船舶積卸実績は、第８図から第１１図のとおりである。

神戸港における令和４年度の総取扱貨物量は、９０，８３９千トン（１０６．５％）であった。品目別では、コンテナ貨物７４，５３２千トン（１０５．０％）、石炭４，８７２千トン（１６１．８％）、自動車２，４７７千トン（９８．７％）、鉄鋼１，８１５千トン（９２．６％）となっている。

第８図　神戸港船舶積卸実績の年度別の推移



尼崎西宮芦屋港における令和４年度の総取扱貨物量は、３，０３１千トン（１０４．０％）であった。品目別では、自動車１，６１４千トン（１０９．５％）、鉄鋼８２５千トン（９３．３％）、金属くず１４５千トン（９５．０％）の３品目で全体の約９割を占めている。

第９図　尼崎西宮芦屋港船舶積卸実績の年度別の推移



姫路港における令和４年度の総取扱貨物量は、９，４５３千トン（９０．９％）であった。品目別では、鉄鋼５，０８８千トン（８８．８％）、石炭１，６３７千トン（１１２．５％）、金属くず９２９千トン（８３．８％）の３品目で全体の約８割を占めている。

第１０図　姫路港船舶積卸実績の年度別の推移



東播磨港における令和４年度の総取扱貨物量は、２８，６８６千トン（９４．５％）であった。品目別では、金属鉱１０，５６０千トン（９３．４％）、石炭６，４９２千トン（９３．７％）、鉄鋼５，４１３千トン（９６．８％）の３品目で全体の約８割を占めている。

第１１図　東播磨港船舶積卸実績の年度別の推移



はしけ稼働実績は、第１２図のとおりである。神戸港における令和５年３月末現在の港運はしけ保有状況は、計１０９隻５８，３３９積トンであり、令和４年度の輸送実績は７０６千トン（９６．７％）であった。

第１２図　管内のはしけ稼働実績の年度別の推移



各港別の沿岸荷役の実績は、第１３図のとおりである。管内における令和４年度の沿岸荷役実績は１０１，６４１千トン（１１４．４３％）であった。

第１３図　管内の沿岸荷役実績の年度別の推移



 **(3) 港湾労働者の現況**

 神戸港の常用港湾労働者数は、令和５年３月末における港湾労働法上の届出数で５，４８９人（対前年同月比１０１．０％）であった。

第１４図　神戸港における港湾労働者数（常用）の推移（各年度末現在）



（資料）神戸公共職業安定所